

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和5年 10月 4日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

9月 6日 (水)

提案 遠藤 恭兵 先生 (白幡小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 藤原 佳澄 先生 (新鶴見小)

記録 戸川 真理子先生 (稲荷台小)

1 提案内容 単元名

単元「受け継がれる「浦賀の虎踊り」～300年続く伝統の獅子舞～」

2 提案者より

児童の実態では、今夏に行われる地域の祭事の参加の有無を調査したところ、クラスのおよそ半数の児童が参加すると答えた一方で、それぞれの祭事の歴史的背景を知らない児童がほとんどであった。また、児童にとって「お祭りは楽しい行事」という捉えが大半であり、裏方の存在やその他運営面での苦勞に目を向ける児童は少ない。

教材として取り上げる「浦賀の虎祭り」は児童にとって身近な材と言いき難い。そこで、児童一人ひとりが材に関心をもち、問いをもつことができるように、導入と本気の学習問題を成立させる場面で、思考ツールを活用していく。また、導入では、実際に出前授業で子ども達に見せたり、横浜市の獅子舞と比較を行ったりするなどの工夫をする。

3 協議会

①導入で、どのような流れで無形民俗文化財マップを掲示していくか。

- ・継承問題に着目してもよいのではないかと思う。昔は、人気で役になりたくてもなれなかった。しかし、今は人材の確保が難しいのが現状である。

②単元を見通す学習問題を成立させていくために、どのような資料を掲示していくとよいか。

- ・保存会は、子どもが子ども役をやってほしいという願いがある。
- ・横浜と浦賀の獅子舞の取り組みや今と昔の取り組みを比較することで、子ども達が「このままでよいか。」と考えるきっかけになると考えられる。

③その他

- ・授業の流れは出前授業前から始めるかどうかは未定である。
- ・総合的な学習の時間との関連は今のところ考えていない。
- ・保存会の方は、平均65歳くらいの高齢者が多い団体である。
- ・出前授業を通して、虎踊りへの思いを知ることができればよい。
- ・児童の実態として、資料の読み取りの力は高い。

＜講師の先生より＞ 元石川小学校 野間 義晴 校長先生

教材開発を行っていくためには、次の3つの視点で取り組むと良い。

①どのような事実を取り上げるか。

教材とどのように出合わせ、その事実を取り上げるか。手立てとして出前授業などが考えられる。

②どのような教材を取り上げるか。

300年という時間を子ども達にどのように見せるのか。300年を読み取るのは難しい。「300年も！」と思う教材の見せ方が必要。手立てとして、例えばテープ図で量的に読み取らせることが考えられる。

③どのような学習活動を展開させるか。

今回出前授業を予定しているが、子ども達がどのように自分事に捉えさせるかが重要である。横浜市と浦賀は距離的には遠いが、子ども達が自分事に学習問題を捉えられるようにしたい。保存会に迫る時に、だれのどのような思いに迫るのか、取材や資料などを活用できるとよい。

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)